

第65回宮崎県学校体育研究発表大会

高等学校部会

1 研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを
実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習
～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 日 程

9:00		9:35		10:30		11:30		13:40		14:40		15:40		16:05			
8:45		9:10		9:25		10:20		11:20		12:30		14:30		15:30		15:55	
受 付	開 会 行 事	説 明 概 要		公 小 開 学 授 校 業		公 中 開 学 授 校 業		講 演 ・ 解 説	昼 食 ・ 休 憩 ・ 移 動	公 特 開 別 授 支 業 援		公 高 開 等 授 学 業 校		指 導 な が 言 り (全 体)		閉 会 行 事	
	(10分)	(15分)		(45分)		(50分)		(60分)	(70分)	(50分)		(50分)		(15分)		(10分)	
会場：小林市市民体育館											会場：県立小林高等学校						

3 公開授業

種 別	学 年	単 元	発 表 者
高等学校	第1学年	球 技 (ネット型：バレーボール)	県立小林高等学校 教諭 福元 哲也

4 授業研究会（今回は日程内に計画できなかったため、公開授業後に参加者を限定して実施）

部 会	役 職	氏 名
高等学校	指導助言者	日本女子体育大学 教授 高橋 修一
	進 行	県立日南振徳高等学校 教諭 高野 茂嘉
	記録者	県立飯野高等学校 教諭 都甲 尚寛 小林西高等学校 教諭 大富 貴史

宮崎県全体の研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習

～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

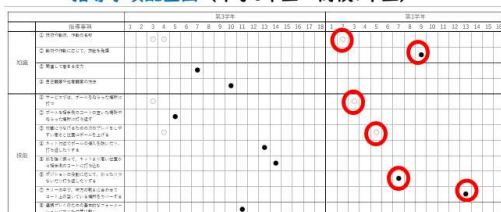
今年度の県全体の研究主題である、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習」、副題として「～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～」に準じる形で高等学校でも研究を進めてきた。

研究内容・授業の視点

部会名	該当学年 活動内容	(1) 系統性を踏まえた指導 内容の一層の充実、指導 と評価の一体化	(2) 「主体的・対話的で深い 学び」の実現に向けた授 業づくり	(3) 共生の視点に立った指導内 容の充実
高等学校	第1学年 (11/16時間目) ネット型 「バレーボール」	○中学第3学年からの2年間を見通した指導事項配置図を作成し、系統性を持った指導と評価の一体化を図る。	○デジタル学習カードで、学んだ内容、その意義とポイントについて認識させることで、3つの資質・能力を効率的・効果的に高める手段とする。	○体力や技能の程度、性別等に配慮して、仲間と共に楽しむために、ルールや教具、声かけ等を工夫して、豊かなスポーツライフの実現につなげる指導を行う。

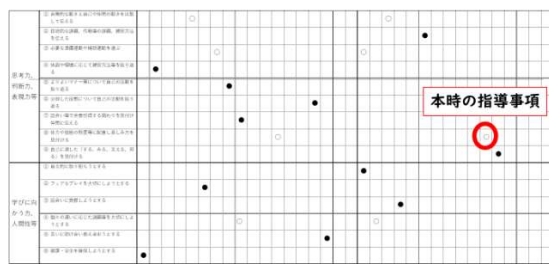
3つの研究内容について、高等学校は、(1)系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化では、中学第3学年からの2年間を見通した指導事項配置図を作成し、系統性を持った指導と評価の一体化を図る。(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりでは、デジタル学習カードで、学んだ内容、その意義とポイントについて認識させることで、3つの資質・能力を効率的・効果的に高める手段とする。(3)共生の視点に立った指導内容の充実では、体力や技能の程度、性別等に配慮して、仲間と共に楽しむために、ルールや教具、声かけ等を工夫して、豊かなスポーツライフの実現につなげる指導を行う。として研究を行った。

(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化 ～指導事項配置図(中学3年生～高校1年生)～



(1)系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化については、研究紀要の63ページに中学第3学年から高校第1学年の指導事項配置図、64ページに高校第2学年から第3学年の指導事項配置図が掲載されている。

高校第1学年の指導事項配置図については、中学第3学年からの2年間となるため、中学校からの情報も参考にしながら、3つの観点のバランスを考え配置した。こちらが中学第3学年から高校第1学年の知識と技能の部分となる。



こちらは同じく中学第3学年から高校第1学年の思考力、判断力、表現力等と学びに向かう力、人間性等の部分となる。

～指導事項配置図（中3－高1・高2－高3）～

本授業の指導事項

中3－高1

思・判・表
④体力や技能の程度等に配慮し楽しみ方を見つける

高2－高3

思・判・表
⑧違いを超えて仲間とともに楽しむための調整の仕方を見つける
⑨生涯にわたって楽しむための関わり方を見つける

2年間を見通した指導事項配置図を活かし、**系統性を持った指導と評価の一体化**に繋げる。

本授業の指導事項に関しては、思考力、判断力、表現力等の『④体力や技能の程度等に配慮し楽しみ方を見つける』の項目となる。これは高2高3では『⑧違いを超えて仲間とともに楽しむための調整の仕方を見つける』、『⑨生涯にわたって楽しむための関わり方を見つける』の項目に対応することが明確になるため、より系統性をもって指導に当たることができる。

(2)
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

～デジタル学習カード～

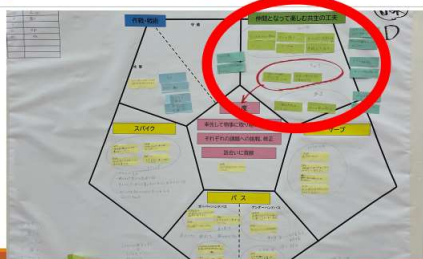
Google フォームを使用し毎時間の振り返りを行い、**ルッカースタジオ**を使用しました。

(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりについては、従来の紙ベースの学習カードではなく、毎時間の振り返りのための Google フォームを作成し生徒に回答させ、ルッカースタジオを使用した。

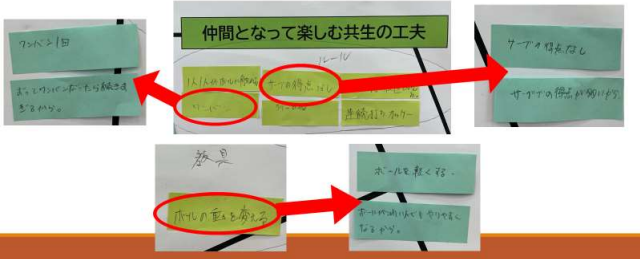


まず、授業の振り返りで生徒が Google フォームに回答する。次に、生徒の回答を集約したスプレッドシート上で教師がコメントを返したり、評価を行う。そして、ルッカースタジオに反映させることで生徒は自分が回答した内容と教師からのコメントや評価だけを見ることが可能となる。個人の学習カードとなったルッカースタジオを見ることで、これまでの自分自身の見方、考え方を振り返りながら話し合い活動等に臨むことができる。また、各グループで『学びのペンタゴン』をまとめていく際に対話的な活動にもつながった。

(3)
共生の視点に立った指導内容の充実
～豊かなスポーツライフの実現につなげるために～



(3)共生の視点に立った指導内容の充実については、前時の授業において、単元の中で使用している思考ツール【学びのペンタゴン】の右上の仲間となって楽しむ共生の工夫を取り扱った。

(3) 共生の視点に立った指導内容の充実 ～豊かなスポーツライフの実現につなげるために～ 	各グループで主体的にルールや教具、ネットの高さ等を考え、リーグ戦で行うルール等を整理した。各グループがルール等の工夫に関して具体的な理由まで明記した。
(3) 共生の視点に立った指導内容の充実 ～豊かなスポーツライフの実現につなげるために～ 生徒が主体的に、体力や技能の程度、性別等に配慮して、仲間と共に楽しむための、ルールや教具、声かけ等を工夫する。 多様な関わり方「する、みる、支える、知る」があることに気付く。	また、高等学校においては卒業後の豊かなスポーツライフを実現するとともに継続するため、「する、みる、支える、知る」の視点からも多くの関わり方があることに気づき、実践につながるような手立てを行った。
授業の視点① 指導事項配置図を作成し、系統性を持った指導と評価を行っていたか。	本日の授業参観の視点① ①指導事項配置図を作成し、系統性を持った指導と評価を行っていたか。
授業の視点② デジタル学習カードで振り返りながら作成してきた思考ツールを使用し、主体的・対話的で深い学びにつながっていたか。	授業参観の視点② ②デジタル学習カードで振り返りながら作成してきた思考ツールを使用し、主体的・対話的で深い学びにつながっていたか。
授業の視点③ 共生の視点を踏まえた話し合い活動等を通じて、ルールや教具、声かけ等を工夫できていたか。	授業参観の視点③ ③共生の視点を踏まえた話し合い活動等を通じて、ルールや教具、声かけ等を工夫できていたか。

研究の変容と研究の成果

授業発表（つながりのある研究）【ネット型球技：バレーボール】

宮崎県立小林高等学校 教諭 福元 哲也

ア 事前研からの変化

- 授業最後の各グループでの話し合いについて、様々な視点で話しあうことができるようになり、以前よりも多くのアイデアが出ていた。
- 見学生も自らタイムキーパー等の役割を見つけ、授業に参加するようになった。
- オーバーハンドパスやアンダーハンドパスの練習では、授業の中でそれぞれの技能に応じた学び直しを繰り返すことによって、パス技能の向上が見られた。
- デジタル学習カード(ルッカースタジオ)の活用方法をスクリーンに映すことによって、話し合い活動や見に来られた先生方にも説明することができた。
- 生徒にはグーグルフォームを使用し、授業の反省をさせたのだが、内容をより理解してくれて、具体的に記入してくれた生徒も多かった。
- 生徒は多少緊張していたが、協力してくれたり、普段の雰囲気をつくってくれてスムーズに授業を進めることができた。
- 授業最後の各グループでの話し合いでは、時間が余りすぎて間延びしてしまった。
- 指導案ではチーム練習を予定していたが、チームの技能状況でチーム練習をしない判断をした。思った以上に学び直しに時間がかかってしまったため、計画を考えてつくるべきであった。
- ゲームが1チーム3試合しかできなかったため、話し合いの時間や練習の時間を効率的に使い、試合を増やしてあげた方が良かった。
- 生徒が記入したデジタル学習カード(ルッカースタジオ)の結果を生徒と更に共有させたかった。

イ 視点に対する最終的な成果

(1) 指導と評価の一体化【指導事項配置図】

指導事項配置図を活用することで、単元の計画が立てやすくなり、授業も計画を立てることで展開しやすかった。また各時間で指導することと評価することで、生徒が授業内で意識することが明確であるため、例えば技能が評価であればできないことにチャレンジする姿が見られたり、思考力、判断力、表現力等が評価であれば話し合いに積極的に参加し意見を出し合う姿が見られることができた。授業ごとに指導事項と評価事項が変わるため、生徒が様々な視点で本単元に向き合うことができる良い機会となった。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善【デジタル学習カード】

デジタル学習カードとしてルッカースタジオを活用させていただいたが、研究授業では生徒が打ち込んだ振り返りをスクリーンに映し、グループや全体で共有できることは大きな利点であると考えられる。またルッカースタジオは各生徒が単元の全ての振り返りができるので、次授業などに生かせることができる。更に、生徒の振り返りに職員のコメントを載せ、返信することもできるので生徒とのコミュニケーションの1つにもなると考える。

(3) 共生の視点に立った指導内容の充実【教具・教材（場やルール）の工夫】

今回は共生の視点として道具やルールの工夫することで全員が楽しむ事を大きな目的として単元を展開していった。その中で単元の始めは理解することができずに話し合いが進まないこともあったが、最終的には誰もが楽しむための教具やルールをグループで選択しグループ内でも声かけをしながら取り組むことができた。また審判や試合運営の役割も与えることによって本単元への関わり方も学ぶことができた。

【授業の様子】



I C Tを活用した授業説明



課題に応じた練習



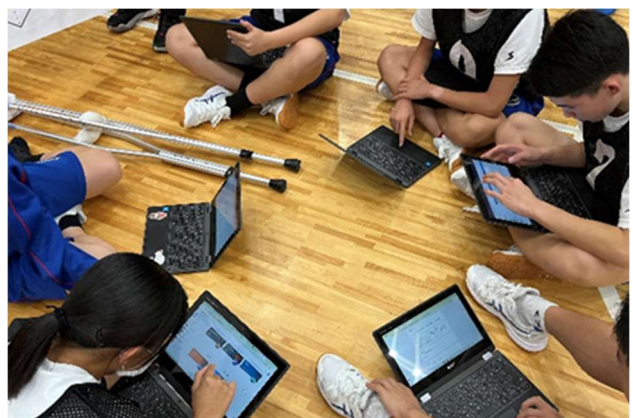
ルール等決めの話し合い



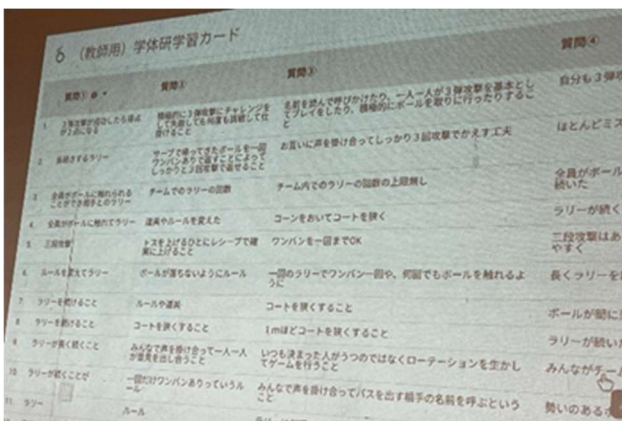
採用しているルールの提示



振り返りの説明



Google フォームへの回答の様子



ルッカースタジオ



授業の振り返り

授業研究会の記録

Ⅰ. 授業者振り返り（つながり 福元 哲也 教諭）

- ・事前研修会の反省を生かし授業づくりを行った。
- ・パスの名称がわからない、ネットを立てることもできない状態から、少しずつ中学校の部分の学び直しから行い、知識・技能の向上ができた。
- ・指導案のチームの練習を ABCD に分かれて練習した理由は、オーバーハンドパス・アンダーハンドパスができないところがあったので、そこを優先した。
- ・授業の中でルールや教具の工夫がもっと出ればよかったと思うが、子供達は精一杯やったと感じた。
- ・今回の授業では、思考力、判断力、表現力等ということで、みんなでルールを決めて、考えて、全員が楽しむために話し合いをして、ゲームにつなげることができた。
- ・活動量を確保しながら、話し合い活動を取り入れていく中で時間配分の難しさを感じた。
- ・今回の単元ですごく勉強になりましたので、また今後の自分の授業に活かしていきたい。
- ・今大会に向けて、白石指導主事、佐々木副主幹、佐久間先生、太田先生や西諸支部の先生方には多くのご協力をいただき感謝している。この経験を通して自分自身多くの学びを得ることができた。

○質問事項

(1)デジタル学習カードの作成時に気を付けたこと、苦勞したことは。

⇒ 各個人が単元内で振り返りをしやすいように解答させるために、質問内容を工夫する必要があった。質問の意図がなかなか生徒に伝わっていない時間もあったため、簡単ではなかった。

(2)ブロックが一度もなかったが、「ブロック禁止」というルールがあったのか。(中学部会はブロックをしていたので高校でブロックがないのに違和感をもった)

⇒ 今回は高校1年生の授業であった。単元の最初でアンケートをとった際に、初歩的な動作やルールを知らない生徒が多数であり、基本的な練習からスタートしており、研究授業までには教えることができなかった。ブロックなどについては次学年時にできるようにしたいと考えている。

(3)ルール設定について。ワンバウンド、得点が2倍以外で面白いルールの意見が出ていれば教えてほしい。

⇒ 単元内で生徒から出たアイディアを載せます。

- ・ボールを変える。(風船、レクリエーションボール)
- ・コートを横半分にする。
- ・ラリー中のワンバウンドを1度だけ活用することができる。
- ・3回でボールを返すことの制限をなくす。(何回でも続けても良い。)
- ・サーブのボールはキャッチしても良い。

(4)チーム分けの際に気を付けたことは。

⇒ バレーボール経験者が1人しかいなかったため、特に工夫した点はないが、共生の視点で授業を展開したかったため、男女比と部活動でできるだけ被らないようなチームにした。

(5)次時はどのように進めるか教えてほしいです。

⇒ 次時以降は、リーグ戦を行う予定であるため、そのための審判の仕方や運営方法、共生の視点での試合の関わり方をチームで話し合ってもらい、リーグ戦を行う。

2. 指導助言者講評

日本女子体育大学 高橋 修一 教授

- ・ 今日の授業を受けて、子供たちに「何を学んだか」「どんな学びがあったか」という問いに対して、生徒が答えられるのか。
- ・ 目標を伝える際は、学習指導要領のままではなく、もっとわかりやすく伝えてよい。言っていることはなんとなく分かるかもしれないが、そこは先生が指導者としてもっとわかりやすく伝えなければならない。
- ・ 高校だけではなく、みんなが楽しむためにと強調されていた。これは間違いない。だが、共生の内容を見ると、個々の違いに応じた課題や挑戦を認める、と書かれている。そのため共生とは、個に応じてもよい。グループ全体で変える必要はない。「私はワンバウンドオッケーにしてよい」や「僕はノーバンでやる」など、全員が楽しむために、個人でルールを変えるという視点もある。
- ・ 技能が高いと感じた。この生徒たちの、「楽しさは?」「ほんとに楽しいってどういうの?」と考えた時に、あの現状であれば正規のルールでやった方が楽しいのではと思った。
- ・ 男子は打てても女子は打てない、そうであればネットの高さを変える、男子はバックアタックのみ、などのルールを設定すればよい。あまりに共生というのを意識しすぎて、できない子に合わせすぎても、面白くない。
- ・ 男子だけのゲームをやって、思いっきり発散する時間も必要である。しかし、車いすの人や言葉が通じない人など様々な人が集まることもあるかもしれない。その中でどうやって楽しくやるのか、という事も学校教育でやっておくべきである。全領域、4月から3月まで男女共修をやらなくてもよいと思う。男女分けてやる場面もあってもよいのではないかな。
- ・ 後半の時間の余りもあったので、なんとなく、生徒の不完全燃焼感もあったのではないかな。
- ・ 共生に関しては、学びに向かう力、人間性等「③個々の違いに応じた課題等を大切にしようとする」の指導が2時間目に入っている。その授業と、今回の授業はリンクしているので、そことの関連、意義や価値を理解させることが大切である。
- ・ 学びに向かう力、人間性等を教えるときは、意義や価値を最低限教えなければならない。意義や価値を理解させ、思考させ、評価させるという流れが大切である。授業づくりに役立ててほしい。
- ・ 態度の内容に関して、球技での指導項目は6項目ある。その中の3つが今回入っていた。なぜ、この3つだったのか。中学校で指導している内容は除いた、もしくは、他の単元でやるから除いた、であれば問題ない。球技は年に2回行うから2回、3回行うから3回という形で分けて、バレーの授業では、これが指導させやすいという意識をもって配置するとよい。
- ・ 最後のルッカースタジオは、思考・判断・表現をみとる材料としてどうなのか。実際、この時間のやったこと、事実が書かれていただけではないか。「こうだから、」「こうやった。」と書いたことが、思考・判断・表現であるのか。子供たちが、考えを述べるようなシートになっていると、よりよいのではないかなと思った。

【授業研究会の様子】

